（学校運営協議会・報告様式）

令和５年度　第３回　鈴西小学校　学校運営協議会　実施報告書

１　日　時　　令和５年１０月１１日（水）１０：００～１１：２０

２　場　所　　鈴西小学校 多目的ホール

３　委員長挨拶

・新聞に急な秋の訪れに「ノックぐらいしてほしい」という記事があった。急に気温が低くなり，肌寒くなった。
・先日の運動会では，子どもたちが一生懸命取り組む姿，応援する姿，上級生にあこがれる様子など見せていただいた。先生，保護者，地域の方々の日々のあたたかい見守りによる成果だと感じた。児童の姿を見るのは一番の学校理解になる。学校はやっぱりいいなと改めて感じた。
・先日，教育委員会からのアンケート調査に回答した。今まで知らなかった新しい教育用語が並んでいた。この運営協議会の場も，新しい風に触れられる機会にしていきたい。

４　学校長挨拶

・運動会のご参観ありがとうございました。
　１週間前は熱中症の心配が必要なほど暑かったが，当日は寒く感じるほど気温が下がった。いい天候のもと開催させていただいた。
・２学期は学校行事がこれからも目白押しで，社会見学，修学旅行，森のまつりといった行事が続く。行事に追われず，子どもたちの力を伸ばす行事にしていきたい。
・中教審の答申が出る度に，新しい言葉が出てくる（教育ＤＸ，Society5.0 等）。学校での教育活動の根幹は大きく変わってはいない。「不易と流行」というが，不易を大切にしつつ，時代のニーズやに合わせて必要なことに取り組んでいきたい。

５　協議事項

（１）鈴西の森の樹木について
　　（添付資料をもとに学校長より説明）
・本年度の予算はすでに決まっているので，来年度の初めに要望していきたい。

《委員の皆様から》
○　樹木を切るのは難しい。地域の方々の同意を得る必要がある。
⇒以前勤務した学校で，桜の木を切るときは慎重に進めなければいけないことを経験した。隣地との境界の木は苦情があって根元から伐採したが，そのことについての意見は特にいただいていない。
○　木を切った後に，新しく苗木を植えてはどうか。
⇒「薄暗くて危険」という観点からの剪定であり，根元からの伐採は考えていない。切りすぎると枯れるので木が枯れてしまわないよう剪定を進めたい。

○　鈴西の森をつくった人は，今６０歳すぎの年齢になっている。「自分たちが鈴西の森をつくった」という意識が高いのではないかと思うが，教育活動を進めていく上で今の森の状態では良くないと，理解してもらえるのではないかと思う。剪定の意図がきちんとしているのだから，当時森の木を植えた人の許可を取るのは不要と考えている。
○　地域の方にも，今の鈴西の森の状況をお知らせしていくことが大切。
⇒学校だよりを地域にも回覧しているので，地域の方々にも意見を聞きたい。
○　鞠鹿野に樹木医の方がいるので，相談してみてはどうか。
⇒来年度，必要に応じて相談に乗っていただきたい。
○　昔はＰＴＡ会員も多かったので，樹木等の管理等もできたが，今は難しい。
○　森の適正管理として木を切るのは，問題ないのでは。
⇒木を切った後になって苦情が寄せられると大変なので，慎重に進めたい。
○　児童の安全が大事。安全性を前面に出していくと理解してもらえるのでは。
○　昔はＰＴＡの環境衛生部でしてもらっていた。
○　今は保護者を頼るのは難しいし，申し訳ない。
⇒スクールパークの芝生や，森の樹木管理，運動場の整備など，保護者の方でお世話になっている方がいる。「必要なことがあったら声をかけてほしい」と言っていただいており，助かっている。造園業者が減ってきているので，特定の地区や一部の方に負担がかかってしまう。
○　学校運営協議会のメンバーで，日時を合わせて環境整備をする日を決めてもいいかもしれない。時間があるときに来て，作業してもよいか。
⇒大歓迎。ぜひお願いしたい。

（２）全国学力学習状況調査について
（添付資料の学校通信№14 号をもとに校長より説明）
・本年度６年生の結果は，国語，算数ともに全国比より高い。両教科，全領域で高い結果が出ている。
・自己肯定感と学力には，相関関係がある。
・家庭学習の時間が減少傾向にある。「学習時間が短くてもよく出来ている」と考えてよいのか。まだ伸びしろがあると考えたらよいのか。
・弱みとしては，自分の考えを自分の言葉で書くのが苦手。これは，経験を重ねることが大事。４～６年生合同で進めているサーチ学習の中で，自分の意見を伝える経験を積ませていきたい。

《委員の皆様から》
○　私はこれまで作文の審査に関わってきた。年々，文を書く力が低下しているように感じている。原因は，感動する体験の不足，文を書く機会の減少。作文指導する時間が減っているのではないか。書くことを教育活動の中に位置付けて，書く機会を増やす必要がある。これは全国的な課題。
○　非常に良い結果が出ている。下地があって，学んだことを積み重ねていっている。
⇒正答数が１問変わると正答率が大きく変わる。集計，発表の仕方で統計データの印象が変わってくる。

（３）　教育活動の状況について
（添付資料の学校通信№10～13，15 号をもとに校長より説明）

《委員の皆様から》
○　運動場に釘が残っているニュースを何度か見たが，鈴西小はどうか。
⇒１学期の体力テストでも，運動会でも，ポイントとして打った釘の数と回収時の釘の数を確かめるよう指示している。

６　連絡・その他（添付資料をもとに校長，教頭より説明）

（１）二学期学校行事より　森のまつり，森のコンサートについて
・近年，コロナの感染拡大をきっかけに，行事の見直しが行われてきた。森のまつりも，コロナ以前の形に戻すのではなく，学校の現状の中で子どもたちの学びを保証しつつ，適正規模での実施をねらって企画している。
・午前中は，わくわくニュースポーツ，ボランティアによる科学実験，職員で企画運営できるものを行い，保護者の参観はなし。
・午後は，当初は西部混声合唱団の招聘を考えていたが，日程が合わなかったので，JUNCO という方に来ていただく。森のまつりの企画意図を理解してもらった上で，森をテーマにした楽曲を入れたコンサートを開いていただく予定にしている。午後のコンサートは保護者も参観可。
・学校運営協議会委員のみなさまは，よろしければ午前中もご参観を。

（２）「人権フォーラムれいほう」について
（３）第４回（合同）運営協議会について
（４）第５回運営協議会について

７　教育委員会から
・地域の方から寄付していただいた鈴西の森の存続は，難しい問題。子どもたちの安全な教育環境のために，校長から地域の承認を得て進める方向でよい。
・昔，ビオトープが流行した時，勤務校でビオトープを作った。年月が経った今は，もうなくなっていた。何事も，維持し続けることは難しい。
・鈴西の森の管理も，地域からの協力をお願いしたいが，あまり無理を言えない。行政としても予算が厳しい状態にある。予算的に来年度が難しくても，再来年度には実現できるようにと検討を進めていく。
・学力は，日々の積み重ねで伸びていくもの。生活環境や家庭の教育力も大事。年度によって多少の差は出るが，鈴西小の先生方の日々の取組の成果が出ているのではないか。
・文を書く力の低下についての話が出ていたが，すぐに力がつくわけではない。発達段階に応じて系統立てた指導による積み重ねが必要。教育委員会からも教材や学習方法などを発信していく。
・鈴鹿市全体としては，読む力の低下についても懸念している。読む力がどれくらいつくかは読書量に比例しているので，活字離れをどう防ぐかが大事。図書巡回指導，図書環境整備に取り組んでいく。
・学校の各種行事が開催できるようになってきたが，コロナ禍以前と同じ内容には戻せない。内容を精査し，児童の学びが深いものになるよう取り組んでいく。
・次回の学校運営協議会は小中学校合同開催となる。義務教育９年間を見通して児童生徒の成長を考える機会となるので，ぜひ前向きな検討をお願いしたい。